

第7回狛江市基本計画策定第二分科会会議録

- 1 日 時 令和元年9月17日(火)午後7時～8時29分
- 2 場 所 狛江市防災センター4階 403会議室
- 3 出席者 委員長 杉浦 浩 副委員長 五十嵐 太一
副委員長 富永 和身 副委員長 馬場 健司
委 員 五十嵐 秀司 委 員 後藤 千尋
委 員 成井 篤 委 員 清水 満
委 員 橋本 研 委 員 平山 達郎
事務局 池田企画調整担当主任 佐々木企画調整担当主任
- 4 欠席者
- 5 議 題 1. 全体整理について
(3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)
(7 自然を大切にし、快適に暮らせるまち)

2. その他
- 6 会議概要

議題1 全体整理について

(3 活気にあふれ、にぎわいのあるまち)

～事務局より説明～

委員長 それでは、3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」について議論いただく。

五十嵐秀委員 ①「魅力の創出・向上・発信」の「目指すまちの姿」について、「誇り」の次に「を」を追加いただきたい。

また、前回の分科会でも、文章としてはよくまとまっているが、特に、「目指すまちの姿」にわくわく感がないのではないかという話があったが、その点については事務局で議論されたのか。

事務局 事務局は3人体制で作業を行っているが、そのような意見があったことは共有させていただいた。御指摘を踏まえ、市民目線を取り入れるといった工夫はさせていただいた。

清水委員 自分で言ったことだが、行政計画でわくわく感を出すというのは、非常に難しいことだと思う。そのわくわく感を出すというのは、ストーリーがあるかどうかということがポイントになるのだと思う。現時点でも、努力をしてい

ただいているように感じるが、その工夫があると、より良くなるのではないかと思った。

五十嵐秀委員 前回資料として提示いただいた狛江市未来戦略会議全体報告書を前回の分科会後に読ませていただいたのだが、これは非常によくまとまっており、おもしろいアイデアも随所に散りばめられていたように感じる。ここに書かれてある全ての事業を実施するといのうは非現実的だと思うが、提案されているいくつかの事業につながるような流れがあると、面白いのではないかと思った。

委員長 私も読ませていただいたが、非常に良いアイデアが詰まっていた。

駅前には再開発のビルと緑地の両方があるというのは、都内の市区でも狛江ぐらいではないだろうか。やはり、この強みはいかしていくべきで、そのためにも、弁財天池特別緑地保全地区を戦略的に活用していく必要があると考える。

富永委員 弁財天池特別緑地保全地区については、現状では開放日が月1回で、開放時間も数時間である。

馬場委員 その議論については、生物多様性地域戦略の検討委員会の中でも議論されている関係もあり、委員会の中で弁財天池特別緑地保全地区を見学させていただいた。弁財天池特別緑地保全地区の活用については、そこでの議論を参考にするべきだと思う。

委員長 狛江の中でも非常に魅力的であり、貴重な財産でもあるため、多くの市民を交えて議論をしても良いのではないか。

馬場委員 生物多様性地域戦略の検討委員会での議論でも、多くの委員から駅前の希少な自然景観の価値を共有財産として活用してはどうかという意見が出ていた。

委員長 この基本計画の中で、議論のきっかけをつくるという意味でも、触れた方が良いと思う。

事務局 弁財天池特別緑地保全地区については、環境政策課とも調整をとりながら、書きぶりについて整理させていただく。

清水委員 この計画が実際に完成して、市民が目を通すことになるのはいつになるのか。

事務局 パブリックコメント等で完成前の計画を見ていただく機会はあるが、完成したものについては令和2年4月になる。

清水委員 ①「魅力の創出・向上・発信」の「施策の方向性」で、「2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業のレガシーを～」とあるが、唐突な感じがあり、また、初年度にすぐに終わるような事業についての記載があることについて、違和感を覚える。

委員 長 「レガシー」という意味では、5年間の基本計画にあっても問題ないように思う。また、国を挙げての祭典であるため、何かしらの記載はあっても良いのではないかと思う。

事務局 東京 2020 大会については、狛江市には競技会場がないものの、東京都がホストシティということもあるため、気運醸成を目的に担当部署を現在設置し、事業を推進している。また、同年度に市制施行 50 周年を迎えるが、ここで実施した事業についても、その後に引き継いでいきたいと考えている。

委員 長 市制施行 50 周年に向けて、準備は進んでいるのか。

事務局 これから来年度の予算編成が始まるため、それを経て正式な事業を決定していくことになるが、現時点では、市内の盆踊りの団体が一堂に会する、盆踊り大会というものが事業案として挙がっている。

五十嵐太委員 周年事業に当たっては、商業に関するイベントについても実施する予定としている。

委員 長 まさに、魅力を打ち出す絶好のチャンスだと思う。魅力というものはすぐに高まるようなものではないため、周年事業が一つのきっかけとなると良いと思う。

委員 長 ④「都市農業の推進」に記載されているGAPについて、概要を確認したい。

事務局 GAP制度という生産工程過程を明確化した上で野菜を生産すると、認証を受けられることとなっている。つまり、品質が保証されていることである。

委員 長 行政の支援はあるのか。

富永委員 市からの支援もある。GAPには、世界基準、日本基準等があり、世界基準や日本基準となると、排水の管理等までルールがある。

委員 長 野菜のおいしさには定評があるため、それをブランドにしていくために、戦略的な仕掛けが必要になってくると思う。

五十嵐秀委員 ふるさと納税を活用して、農産物をはじめ、市の地ビール等をアピールしていくという視点が必要ではないか。

また、えきまえ広場を活用したイベント等で、農産物や地ビール等をもっとPRしていけば良いと思う。

五十嵐太委員 先日、5回目となる狛江フェスティバルというイベントを開催した。ビアフェスのような位置づけもあるのだが、若い方にもたくさん参加していただき、非常ににぎわった。

五十嵐秀委員 私も足を運んだが、大変盛り上がっていた。あのイベントに出店されているお店に多額の利益が出ているかという、そうではないと思う。それよりも、出店することで、お店や商品を知ってもらうという、PRの意味合いの方が強いのだと思う。

橋本委員 えきまえ広場でのイベントについて、私の所属している団体が主催となり、狛江市から補助金をいただいて、マルシェを開催することを企画している。

そこで、狛江農産物や地ビール等も販売できればと思っている。

えきまえ広場は、場所としても非常に良いため、弁財天池特別緑地保全地区とも連動して、もっと活用していくべきだと思う。

委員長 続いて、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」について、事務局から説明をお願いします。

～事務局から説明～

委員長 それでは、7「自然を大切にし、快適に暮らせるまち」について議論を開始する。

私から2点ある。⑤「市街地整備の推進」の政策の方向性4「快適な住環境の整備」で、「福祉・子育て部門等関連部署と連携し、空家等の利活用についても検討を進めます。」という記載があるが、空家と子育てというのはどういう関係があるのか確認したい。

事務局 まだ案段階だが、空家を子育て施設に活用できないかという話が出ているため、一つの例示として記載させていただいた。

委員長 もう1点、⑥「道路・交通環境の充実」の施策の方向性3「交通事故の抑制」について、「自転車による交通事故の抑制に取り組みます。」と記載があるが、交通事故の抑制は相手もあることで、様々な事故のパターンがあると思うので、ここでは、「自転車の安全な走行環境の確保に取り組みます。」とした方が良く考える。水道道路は、歩道も狭く、そこを自転車が走っていたりもするため、最たる例ではないかと思う。まず市で取り組まなくてはならないのは、自転車が安全に走れるような空間の確保、あるいは意識啓蒙、これらだと思っている。

富永委員 電動自転車が結構なスピードで走っていて、歩行者側から怖いという声を聞くことがあるため、対車と同時に、対歩行者とった視点も重要になってくると思う。

委員長 今の富永委員の意見も踏まえ、「自転車運転についての意識啓蒙」も盛り込むようにしていただきたい。

橋本委員 施策の方向性4「自転車利用の推進」に、サイクルステーションの設置を記載することはできないか。ハード整備のため、内容としては難しいかもしれないが。

また、レンタルサイクルやシェアサイクルといったものも、自転車施策の一環として取り組んでいくべきだと考える。

後藤委員 私も休日は多摩川サイクリングロードを自転車で走っているのだが、道沿いに休憩スポット等がないため、サイクルスポットの設置は、1つのビジネ

スチャンスにもなると思う。

事務局 狛江市自転車ネットワーク計画を策定し、自転車利用を促進していくという方向性ではあるが、今話があったサイクルスポットやシェアサイクルという具体的な案までは出てきていないため、ここでの話し合いをもって基本計画に記載するのは難しい。

五十嵐秀委員 広域的に連携をして、多摩川サイクリングロードの要所にカフェを設置するといった取組ができれば良いと思う。

平山委員 調布市ではシェアサイクルを実施している。

委員長 調布市や川崎市等と連携してシェアサイクルに取り組めば、需要はあると思う。今の議論は、3「自然を大切にし、快適にくらせるまち」の②「地域コミュニティ・都市間交流」にも関連する。施策の方向性3「都市間交流の推進」について、ここでは「友好都市に限らず、様々なつながりを契機として、新たな都市との交流にも取り組みます。」と記載しているが、ここに「近隣自治体」という文言も入れておくべきだと思う。友好都市もちろん重要だが、近隣自治体との関係性も非常に重要であると考え。

富永委員 多摩川沿いは、ジョギングをしている人も多いため、そういった方々が休憩できるようなスポットがあっても良いと思う。

事務局 7「自然を大切にし、快適にくらせるまち」は、あくまで自然環境の保全に関する内容となっているため、多摩川をいかしていくという方向性は3「活気にあふれ、にぎわいのあるまち」に記載した方が整理がつくのではないかと考える。なお、基本計画というものは、具体的な事業を示すものではなく、各個別計画への流れをつくる、方向性を位置付けるものであり、担当部署で議論がされていない現状で、今議論があったような事業をこの計画に記載をすることは難しい。

そういった事業を将来的にやっていくことを想定した、含みのある文章に留まることを御理解いただきたい。

委員長 この基本計画に文言があることで、将来的な事業の実施に当たってのきっかけとなるようにしていただければと思う。

五十嵐秀委員 一方、やはり目玉事業というものがないと、わくわく感がなくなってしまふ。例示事業があれば、市がどういったことをしていこうとしているのかが市民にも分かりやすくなると思うため、そういった工夫を是非ともしていただきたいと思う。

委員長 近隣自治体や多摩川流域の自治体との連携による、多摩川の利活用というものは、何かしらの文章でも良いので基本計画に位置付けていただきたい。文言は事務局にお任せする。

事務局 担当部署とも調整して、記載内容を事務局で検討させていただく。

五十嵐秀委員 未来戦略会議全体報告書は、今後どのような形で活用していく予定か。

事務局 本報告書では、貴重な提案を中堅職員からいただいた一方で、研修という意味合いではじめた経緯もあったため、事業間の実現性に差があり、今すぐ取りかかれるものから、実施まで何年も必要なものまで様々ある。市としては、すぐに取りかかれるような事業については前向きに検討するようにし、各個別計画に盛り込めるようなものがあれば、積極的に盛り込んでいくということになっている。

五十嵐秀委員 未来戦略会議全体報告書に記載されている事業案の実現のためにも、基本計画の中でそれとなくにおわせておくと、実現のハードルが下がっていくと思うので、事務局でもそこは工夫をしていただきたい。

事務局 今後のスケジュールについて、本日まとめた資料を10月15日開催予定の総合基本計画審議会に提出させていただくため、本日議論した内容以外で意見がある場合、9月24日正午まで事務局へ連絡をお願いする。

議題2 その他

委員長 その他特に意見等なければ、第5回狛江市基本計画策定第二分科会を終了する。